

残業月100時間超 申告は30時間

「ヤミ残業」息子奪った

親思いで責任感が強かった最愛の息子は、公務員としてひたむきに働いていた。「結婚して、孫もできて……。そんな未来がやってくると思っていたのに、全て奪われてしまいました」。月100時間を超える過重労働の末に命を絶った息子の両親が、勤務先の奈良県を相手に起こした民事裁判で真相究明を求めている。訴訟を通じて浮かんできたのは、「ヤミ残業」の黙認が疑われる勤務管理の実態だった。

5年前の2017年5月 自宅を訪ねてきたある県21日朝、奈良県職員だった西田幹さん(当時35歳)は奈良県大和郡山市の自宅で亡くなっていった。ベッド脇でぐったりする幹さんを見つけたのは同居の父裕一さん(68)だった。

3人兄妹の長男だった幹さん。裕一さんと母隆子さん(65)は名前に「一家の大黒柱になってほしい」との願いを込めた。両親にとって、自慢の息子だった。

「何があったのか。誰か教えてほしい」。息子の死を受け止められないまま1カ月ほどが過ぎた頃だった。「過労死110番」のニュースを目にした時、ピンとくるものがあった。深夜帰宅や休日出勤が続く中、幹さんが職場の話をはじめとしなくなっていたからだ。

奈良県職員自殺 苦悩 上司に届かず

100時間を大幅に超え、「過労死ライン」を上回った。職場では主に職員の給与計算を担当したが、パソコン業務が苦手だったとき、同僚に「しんどい」と漏らしていた。上司との面談でも異動を懇願したが、すぐに希望は通らなかった。



父親の裕一さん(右)と母親の隆子さんは、幹さんの遺影の前で裁判への思いを語った。奈良県大和郡山市で19日、川平愛撮影

変わらぬ症状が悪化していた。相談を受けた産業医が労働時間の改善に加え、再び配置を転換する必要性を職場に指摘したのに、残業は続き、土曜だった自殺前日でも出勤していた。自殺直前だった17年4月の異動期も同課にとどまっていた。基金支部は通知書で「県の対応は不十分と言わざるを得ない」と批判した。

長時間労働の是正は、客観的な記録に基づく勤務管理が欠かせない。働き方改革を推進する国もガイドラインを策定するが、約4割の自治体は職員の自己申告のみで勤務状況を把握しているとのデータもある。自己申告は「ヤミ残業」の温床になっているとの指摘があり、専門家は「勤務時間の実態把握を徹底しなければ、過労死は防げない」と警鐘を鳴らす。

自治体4割 自己申告のみ

厚生労働省は2017年、ガイドラインを策定し、残業時間は原則としてタイムカードなどの客観的記録で管理することを推奨し、総務省は各自自治体にこのガイドラインの準用を求めている。しかし、総務省が全国の地方自治体を対象に実施した20年度の調査では、36.7%が職員の自己申告のみで管理していた。

超の残業をした月でも30時間以内の記載が相次いでいた。県は当時、職員の自己申告のみで勤務管理しており、裕一さんは「ヤミ残業を黙認し、部下を人間扱いしていなかったのではないのか」と憤る。

不安や悩みの
主な相談窓口
よりそいホットライン
0120-279-338
生きづらびっと
https://yorisoichat.jp/
「自殺予防
いのちの電話」
0120-783-556

観光船現場検証

カスワンは27日、海上保安庁から委託を受けた民間企業「日本サルウェーシ」の作業船「海進」の上で引

死者 30536人 (02)・死者5人を含む

感染者	死者
191 (+397)	219
312 (+600)	715 (+1)
522 (+2243)	5036 (+2)
484 (+1063)	2231
630 (+188)	385
865 (+138)	117
940 (+74)	20
770 (+58)	15
092 (+426)	247
631 (+781)	485
060 (+278)	176
1956 (+69)	82
718 (+220)	123
9128 (+189)	139
7339 (+148)	113 (+1)
2166 (+1484)	1251 (+2)
2005 (+166)	105
863 (+288)	124
7260 (+526)	288
437 (+241)	160
117 (+345)	141
663 (+446)	197 (+3)
2141 (+1509)	459
875	13

30549人(+36)
81人(-9)

回	%
7回	81.7%
5回	80.5%
2回	58.3%
3回	-%

クチンナビ